

新年度を迎えて

理事長・統括施設長 岡野光宏

お陰様で令和元年度も終了し、新年度を迎えることができました。これもひとえに保護者の皆様、後援会の皆様、利用者の方々、地域の皆様、各関係機関、応援してくださる方々のご支援のお陰と感謝しております。

現況は新型コロナウイルス拡大により様々な影響がでています。皆様方も不自由な生活をされているのではないでしょう。先がなかなか見えず不安ではありませんが、利用者の明るい未来のためこの難局を皆で出来ることをしながら乗り越えていければと思います。

令和元年度は事業に大きな進展がありました。未就学児の子を対象にした児童発達支援事業所すたーとが開所し、平沢A棟のグループホームが日中サービスマイル型を取り入れ、2名の短期入所が可能となりました。一方、障害者支援センター未来では

活動場所、作業場所の充実が課題でありましたが、筑峯学園から15分、石岡特別支援学校より15分に位置する土浦市永井に、土地面積約一三〇〇坪、建坪約二二〇〇坪の不動産を購入出来ました。令和2年度中には障害者支援センター未来永井（生活介護事業）を進めていく所存です。障害者支援センターの職員は利用者の皆様の力を引き出し伸ばしていける創意ある作業内容を作っていく事で日中活動の幅も増えて豊かに活動しやすくなることと思います。

障害児入所施設の方では改築に向けて子供たちが育つ住環境をどのようにしていくのか検討に入る予定です。心身の発達を保障し、健康で生活できることを起点に考えてまいります。当法人の各事業所が、利用者の声に、思いに、心をかたむけながら、彼らの真の成長、幸せを願い、職員が

福祉の仕事に就いた思いを大事に持ち続け創意工夫をもって協力し合いながら仕事ができるように自己研鑽、研修につとめ一層の努力をする所存です。

今年度も、保護者の皆様、後援会の皆様、地域の皆様、各関係機関の皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

新年度にむけて

児童施設 施設長 岡野美智子

山の木々も美しく萌え、今年も山桜が美しく咲いています。のどかな春に突然新型コロナウイルスが猛威を振るい世界中不安な状態です。皆さま、いかにお過ごしでしょうか。

2月の中旬には例年の様に奥日光での宿泊学習は行えました。その後、つくば市のチャレンジアートフェスティバルで創作劇をする予定でした。多くの園生の出演を計画して楽しみに練習していましたが、残念ながら中止となりました。

新学期や新入学に期待を膨らませていた園生たちも一応5月末日まで休校となり、園の中での生活を余儀なくされています。

手洗い、うがい、検温、室内、ドアノブの清掃、消毒をはじめ、今出来ることを毎日おこなっています。休み中を無為に過ごすのではなく、生活の主体者としての日常の洗濯、干し、

片付け、衣類整理の他に、学習、作業に取り組んでいます。お絵かき、工作、ひらがな、漢字、数字の勉強や

社会的な学習、作業ではワックスがけ、椎茸菌の打ち込み作業、竹山の整理、野菜栽培等に取り組んでいます。やることには事欠きません。朝の清掃の

雑巾がけは全員、膝をつかず筋肉トレーニングです。職員も缶蹴りやかくれんぼ、卓球など集団遊びに取り組んでいます。園生は集団生活ですので

人と人の関係がとれるのは利点ですが、感染の早くの終息を強く願います。保護者の皆様には、感染予防のため外出、外泊などの制限や行事の

中止など協力をいただいております。皆様もお体にお気をつけ、皆元気に

お目にかかれる日を楽しみにしております。

令和元年はお陰様で無事終了することが出来ました。大きな台風があ

りましたが、子供たちも大きな怪我や病気に罹ることなく元気に過ごすごが出来ました。転校した石岡特別支援学校生活にも慣れてきました。

キャンプ、冬の宿泊学習の取り組みは新しい体験を取り入れ挑戦、協力を

主とし、運動会には保護者の方の協力を得て基礎体力の向上を図り、その他の季節の行事に取り組み、日々

の生活の楽しみを感じるようになってきました。子供たちが心身ともに安定し、生きる楽しさ、成長できる喜びを体験を通して感じられればと思

います。決してテレビやゲームでは体得できません。1つ1つの行事には意味があり、こともたちの成長につながるものと確信し、職員は協力して事

業を行ってきました。その中で職員のチーム力、支援力も向上してきました。

社会福祉法人筑峯学園の児童施設

の利点として、隣接して障害者支援センター未来の事業所があり、日々、成人の利用者さんたちの労働を見る

ことが出来、時には一緒に作業に取り組めること、グループホームがあり、成人の利用者の生活を垣間見ることが出来ることと思います。令和元

年から開始した児童発達達の未就学の子供達を見ては年少児へのかわいさを感じるのでしょうか皆優しい顔をして関わっています。施設は閉ざされた

社会と思う方もいるかと思いますが、そんなことはありません。水まわりや電気、修繕等不足があるとすぐ飛んできて治してくれる業者さん、食

料品を配達してくれる業者さん、毎月来園して20年余子供たちの理髪してくれる都築さん、その他多くの

方々に支えられ生活が成り立っています。子供たちも挨拶を交わし、荷物運びを手伝うなど関わりを持っています。保護者の方にも施設生活とい

うものを理解していただき共に子供たちの健やかな成長を見守っていただきたいと思います。

令和2年度も職員一同力を合わせて子供たちの援助に取り組んでまいります。

りたいと思います。

今年度はチャレンジの年

障害者支援センター未来 センター長 松島寿樹

つくほうだより

記録的な暖冬から春の訪れは早かったものの、4月に入り雨が多く、気温も平年より低い日が続き、農作物の成長は緩やかです。世間は新型コロナウイルスの感染拡大により、感染防止のための外出自粛やテレワーク、経済活動の停止傾向が強まり、様々な業種でイレギュラーな環境での活動が求められています。障害福祉の分野でも、千葉や茨城の障害者支援施設において利用者、職員、家族など感染が確認された様子を見ると、とても他人ごとではありません。障害者支援センター未来でも感染防止に向け、神経質になる日々を過ごしています。こんな時こそ、不平不満ばかりを口にするのではなく、マクロの視点を持ち、力を合わせて日々の課題を一つ一つ乗り越えていきたいと思えます。このような社会状況ですが、周りを見渡せば変わらず

北条大池のソメイヨシノが咲き誇り、宝篋山系の山桜をはじめとした木々が芽吹き、自然のパワーが炸裂しています。日々変化していく自然を見ているだけで、少し心が安らぎます。みんなで力を合わせて、早く普段通りの平穏な社会に戻ることを願うばかりです。

さて、今年度は障害者支援センター未来にとってチャレンジの年となります。土浦市永井の地において、新たな事業所を開所します。3月から長年手つかずであった敷地内の木々の剪定や草刈り、オリーブの苗木の仮植、建物内の清掃などを職員、利用者で始めました。新しいことを始めることはエネルギーが要りますが、夢を共有しワクワクをエネルギーにしながら日々頑張っています。ライフライン等のリフォーム工事が完了次第、新事業所として開所予定です。

改めて報告させていただきます。

平沢事業所では例年通り、地域の田畑でつくほう米作り、野菜作り、山での薪作り、原木しいたけ栽培、果樹やハーブの栽培、お茶づくりを中心として利用者さんの心身の状態に合わせていろいろな活動を取り入れながら活動していきたいと思えます。お陰様でつくほう米や野菜、薪の販売先も少しずつではありますが拡大しています。また、今年度は筑波山に古くからある酒蔵「稲葉酒造」様から栽培委託を受け、酒米品種「山田錦」を約1haほど栽培することになりました。清らかな沢水で栽培した酒米で作る日本酒が今から楽しみです。新たなスタッフを迎え、藍や綿の栽培を行い草木染めにもチャレンジしてみます。

このような形で今年度も変わらせず、周辺の自然環境を生かした日々の

活動や行事を通して、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い共感し、興味関心を引き出し、時には叱咤激励し、心身ともに健康に過ごせればと考えています。

障害者支援センター未来が現在まで培ってきた経験とチャレンジ精神で事業所としてさらなる成長ができるように、利用者、職員ともに力を合わせて、活動していきたいと思えます。保護者、関係者の皆様には今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

ほっとびびる場所を再認識

グループホームほっとハウス 施設長 大和田敏夫

今年度よりほっとハウスの施設長を務めさせて頂くことになりました。大和田です。

私自身、筑峯学園に入職してから20数年が経ちますが、出会った当時は10〜20代であった利用者さんも今では30〜40代となり、お互い歳を取ったなど当時を懐かしく振り返ることもあります。同世代が多いほっとハウスの利用者さんの生活がよい良いものとなる様、これまでの経験を活かしながら微力ではありますが日々努力していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

つくほうだより

4月8日にはグループホームの新年度会議がありました。会議の中でそれぞれの職員が今年度の抱負を話したのですが、その中で多くの職員が話していたこと、それは「ほっとハウス」という名に込められた利用者さんにとって「ほっとできる場所」としての在り方を考えながら働いているという

ことでした。私自身もほっとハウスという名が大変気に入っており、それぞれの利用者さんが自分らしく安心して安全な生活できる場であり続けられる様、職員一同協力して頑張っていますので、よろしくお願いいたします。

早速ですが、ほっとハウスの近況等

をお知らせいたします。4月1日からほっとハウス作谷が13年目、平沢については6年目のスタートを無事に切る事が出来ましたが、コロナウィルスの発生により不安と緊張の毎日が続いています。2月の末に予定されていたチャレンジアートフェスティバルについても、舞台発表に向け練習に取り組んでいましたが、残念ながら中止という形になってしまいました。日頃から利用者さんの健康管理には気を付けておりますが、最近の情勢を鑑み帰宅後の手洗いやドアノブの消毒、毎食後の検温等、出来ることをしようという職員間で確認し実行しています。

先月には、保護者の皆様に外泊と面会の自粛のお願いする文書を送らせて頂くこととなり、大変心苦しく

思っておりますが、利用者さんの安全を守る意味での対応とご理解を頂きたいと思えます。幸い今のところは利用者さん、職員ともに元気に生活できておりますので、今後も不測の

事態に備えながら関係者が協力して生活を維持できるように支援にあたりたいと考えています。

利用者さんの生活については、職員力だけで全ての支援をすることは難しく、児童施設同様に利用者さんとの協力関係で成立しているところが多いと考えています。ほっとハウス開所当初は生活に関わる部分を職員が行なっていたこともありましたが、現在は利用者さんに出来ることはしてもらおうというスタンスにシフトしてきており、食事の配膳や下膳、洗濯

それぞれの利用者さんのできることが増えてきたと感じています。また、ほっとハウスにおける自立棟としての

位置づけである平沢B1棟4名の利用者さんについても、時々利用者さん同士の問題等はありませんが、日々の経験を通して調理技術等の向上も見られています。その取り組みを通して職員側の発見や新たなことに気づかされることも多く、この利用者さんにはこんなこともできるのでは…

というような支援の繋がりがも出てきていると思っております。今後とも生活の主体者である利用者さんの可能性を少しでも広げられる場でありたいと考えています。現在は情勢的になかなか外に出掛ける活動は難しい状態ではありますが、利用者さんがリフレッシュできる余暇活動を職員間で意見を出し合いながら考えていきたいと思っております。また、小規模ではありますが、平沢作業所内や作谷敷地内での

野菜作りも継続しており、今年度は未来の永井作業所も遊びや活動の場として活用できることとなり、活動の幅が広がるのではないかと楽しみにしております。

最後になりますが、ご家族の皆様におかれましても、健康には十分留意してお過ごし下さい。

令和2年度もよろしくお願ひいたします

相談支援事業所 所長 武田真浩

令和2年度がスタートして、約1ヶ月が経過しましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

当法人の相談支援事業所もおかげさまで(本格的に開始してから)9年目を迎えることができました。今後ともこれまで以上に皆様のお役に立てるように取り組んでいきたいと考えております。

新年度を迎えて、気持ちも新たにしていきたいところですが、新型コロナウイルス感染症関連の影響は日に日に大きくなっており、対応に頭を悩ませることも多くなっております。見えないウイルス、いつ終息するのかわからない状況、何とも言えない落ち着かない感じ…、予測がつかない、見通しが持てない日々は不安であり、生活していく中で安心感はとても大切なものだと改めて感じております。皆様それぞれ我慢したり、大変な

思いをされていることと思いますが、個人的にはこの状況下で感じたことや考えていることを今後の支援にできるだけ活かしていきたいようにしていきたいと思っております。何が正解なのか、どうすることが望ましいのか、判断に迷うこともあります。不要不急、密接・密集・密閉は避ける、換気、手洗い・消毒、体調管理…、できることを行ないながら、前向きに相談支援に努めていきたいと思っております。

身近な相談先として少しでも活用していただきたいと思っておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。今後ともよろしくお願ひいたします。

令和2年度の相談支援事業所の職員体制としては、前年度とほぼ変わりはなく、専従と兼務を合わせて4名の相談支援専門員と1名の相談員となっております。また、これまで同様に法人内の各事業所の職員の方々にもご協力いただきながら行なっていく予定です。

新年度すたーと

児童発達支援事業所すたーと 管理責任者 引田紘介

新緑の美しい季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？現在、新型コロナウイルスの感染が拡大し、不安な日々を過ごしていらっしゃる方が多いかと思えます。幸い、法人内に感染者がでる事なく利用者・職員共に元気に過ごしている事に心安心している所です。児童発達支援の活動にも少なからず影響が出ており、入所している未就学児童3名(4月より小学生の「お別れ遠足」と題して、3月に日立かみね動物園・遊園地に遠足に行く予定でしたが、感染防止の為に中止とさせて頂く事になりました。児童発達支援を利用している子ども達も楽しみにしていた行事だったので、とても残念でした。

つくほうだより

児童発達支援を利用して頂いているご家族の皆様には、毎朝の検温や不要不急の外出の自粛等のご協力を頂き、ありがとうございます。園でも

引き続き、手洗い・うがい・消毒・検温・換気等を行ない、可能な限りの予防を徹底してまいりたいと思えます。ご家族の皆さまも、引き続きご協力よろしくお願い致します。

さて、児童発達支援事業所すたーとは、令和元年7月1日に開所し、新年度を迎える事が出来ました。まだまだ十分な事業とは言えず、利用して頂いているご家族の皆様にはご迷惑をお掛けしている事も多々あるかとは思いますが、少しずつ力をつけてより良い事業所となれるよう、職員一同努力してまいりたいと思っております。

3月・4月は、出会いと別れの季節です。昨年度、児童施設に入所している未就学の3名の子ども達もすたーとで活動を共にしていましたが、これからの小学校生活が充実したものと成るよう、陰ながら見守って

いきたいと思っております。4月1日からは、今年3歳になる女の子がすたーとを利用する事になりました。すでに利用している「先輩」の男の子が気にかけてくれていて、色々な場面で優しく教えてあげたり、食事の後の口の汚れをティッシュで拭いてあげる可愛い姿が見られました。これからすたーとの友達と仲良く、楽しく過ごしていつか欲しいなと思えます。すたーとに約1年通園してきている子ども達は、力強くつかまり立ちするようになつたり、毎朝している体操が上手になつたり、話す言葉の数が増えたり、歌が上手になつたり・・・と

色々な場面で成長を感じます。毎月行なう身体測定では、身体面での成長もすっかり見られています。職員による支援だけでなく、子ども達の中でお互いに刺激しあい、成長している部分も大きいのかと感じています。

子ども達1人1人、成長する速度は違いますが、着実に成長している事を感ずる事ができ、職員の喜びに繋がっています。

今年度は特に、健康管理に十分に注意を払いながら、楽しく元気に活動していきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。